

地区防犯協会・ボランティア団体の活動紹介

白河地区防犯指導隊白河支部（白河市）



当支部は、白河市の繁華街、白河駅やその周辺を活動範囲としており、祭礼等が開催される都度、隊長以下6名が自主的に徒歩で警戒を実施し、市民への声かけを積極的に行い、犯罪の未然防止に尽力しています。今後も白河市の「安全・安心な街づくり」の為に、隊員一同、防犯啓発活動に取り組んでいきます。

本郷こまわり隊（会津美里町）



本郷こまわり隊は、子供の見守り活動を目的として平成16年に結成され、設立当初は通学路の見守り活動を主な活動としていたものの、少子高齢化が進む中で、子供の見守り活動だけでなく、年金支給日等における、なりすまし詐欺被害防止活動にも積極的に取り組み、地域の安全・安心の確保に大きく貢献しています。

《補導員の手記》

あなたのスマホの使い方、責任を持てますか？

昨今では、全国的にSNS利用に起因する性犯罪等の被害に遭っていることもや、闇バイトに応募し、犯罪者となってしまう子どもがいます。

街で会う子どものほとんどはスマートフォンを持っており、早い人では小学生からスマートフォンやインターネットに繋がる機器を持っています。

スマートフォン等の普及に比例して、保護者や学校等からインターネット上でのトラブルの相談も多く耳にするようになりました。

友達と喧嘩をし、グループトークで友達に対し、「死ねば」などと怒りの感情のまま書き込んだ中学1年生。

自分の好きな男子と下級生が仲良くしていることを妬み、SNS上に、その下級生に「いじめられてる」などと虚偽の情報を書き込んだ中学3年生。

先生に注意されたことに腹を立て、「マジイラつく。マジで殺す。」などと先生の悪口をSNSに書き込んだ中学2年生。

交際中に彼女のプライベートゾーンが写っている写真を撮り、別れてからその写真を友達に拡散してしまった中学3年生。

家出をし、SNSで知り合った彼氏に会いに行き、県外で発見された高校1年生。

このように、インターネットは、とても便利で楽しい反面、子どもであっても犯罪の被害者にも加害者にもなる危険性があります。

情報モラル講話等で小・中・高校を訪問し、児童・

福島県警察本部
少年女性安全対策課
会津少年サポートセンター
主任少年警察補導員

岡田 桃子



生徒のみなさんに、「自分が友達から悪口を言われたり、SNSに悪口の書き込みをされたら、どんな気持ちになるか」と聞くと、ほとんどが「嫌な気持ちになる」と答えます。

では、どうして嫌な気持ちになることを、友達にしてしまうのでしょうか。

画面上のメッセージであっても、その言葉がナイフのように相手の心を傷つける道具にもなり得るのです。

子どもたちは、メッセージのやりとりであっても、SNSを使う上では、「責任」を持って使わなければいけません。

SNSを使う時、友達にメッセージを送る時、そのメッセージは友達や誰かを傷つける言葉になっていないか、投稿して良い画像なのかを、よく考えて使うようにしてください。

保護者の皆さんは、子どもたちが犯罪の被害者にも加害者にもならないように、スマートフォン等の機器を持たせて終わりではなく、使わせる・持たせる前の早い段階で、家庭のルールを親子で作作り、ペアレンタルコントロールをして安全に使わせるようにしましょう。

また、普段から家庭でのコミュニケーションを取り、子どもが悩んでいる時に、相談しやすい親子関係でいることも大切になります。

そして、ネットの繋がりでだけでなく、たまにはスマートフォン等の機器を置いて、親子で出来る遊びや、地域の行事等に参加し、リアルな繋がりを感じてみるのはいかがでしょうか。

令和6年 地域安全作文コンクール 審査結果

令和6年地域安全作文コンクールの審査が行われ、次のとおり入選作品が決定しました。

入選者には、警察署を通じて福島県防犯協会連合会会長表彰が授与されました。

応募数は、小学生・中学生合わせて300点で、最優秀作品は福島県防犯協会連合会のホームページにも掲載しておりますので是非ご覧ください。

小学生の部 入選者

最優秀 ぼくにできること

優秀 わたしたちの安心な町

佳作 町の安全はみんなで作る

小林凜太郎（石川町立石川小学校1年）

松川 優菜（喜多方市立豊川小学校5年）

五十嵐柚月（喜多方市立関柴小学校6年）

中学生の部 入選者

最優秀 みんなが安心できる町をつくるために

優秀 みんなで作る安心の街

佳作 被害にあわないために

本柳 結衣（いわき市立錦中学校3年）

早津 瑞希（白河市立白河第二中学校3年）

谷藤 茉奈（いわき市立錦中学校2年）

最優秀作品 (中学生の部)

みんなが安心できる町をつくるために

いわき市立錦中学校3年 本柳 結衣

みんなが安心して暮らせる町をつくるには、どうしたら良いだろう。そう考えたとき、私は挨拶が思い浮かびました。そこで、挨拶の効果を考えてみました。

まず、一つは、防犯になるということです。

以前、防犯教室に警察官の方が来てくださったとき、挨拶などの声かけが効果的だということを教えていただきました。声をかけられることは、犯人にとって犯罪を思いとどまる大きな材料になるそうです。知らない人にいきなり声をかけることはハードルが高いですが、挨拶ならハードルも低く、誰でもすぐに始められると思います。私は、このことを知り登下校時など、積極的に挨拶をするようにしています。

二つ目は、地域の人たちとの交流になるということです。私は七年前に今住んでいる場所に引っ越してきました。でも、近所に住んでいる人との交流はあまりなく、どんな人が住んでいるのかもあまり知っていませんでした。それに比べ、私の祖父母が住んでいる地域では、道ですれ違ふとみんな明るく挨拶をしてくれます。挨拶から会話が始まることもあり、近所の人たちとの交流がとても深いです。自分が住んでいる地域の人たちとの交流を深めていくためにも挨拶はとても効果的です。

三つ目は、気分が明るくなり、笑顔になる機会が増えるということです。挨拶をしたり、されたりすることで嫌な気持ちになったり、暗い気分になる人は減多にいないと思います。挨拶を明るい声ですると、された人はもちろん嬉しい気持ちになりますが、その後に相手から明るい挨拶が返ってくると、した人も嬉しい気持ちになり、自然と笑顔がこぼれてきます。心と身体はつながっています。元気がない時でも身体で元気に挨拶をすると、それにつられて心も元気になっていきます。挨拶をきっかけにして明るい気持ちになり、笑顔が増えて心も身体も元気にすることもできるのです。これが自分だけでなく地域の人たちにも広がっていけば、とても明るく、みんなにとって居心地のよい町をつくっていくことができると思います。

このように、挨拶にはたくさんの効果があります。地域の人たちと一緒に挨拶の輪を広げていくことにより、犯罪を防止することができ、交流を深められ、みんなが明るく笑顔になることができます。これは、みんなが安心して暮らすことのできる町をつくるためには、とても重要なことだと思います。どんなに小さなことでもみんなでやれば必ず町は良い方向に向かっていくはずで、私の理想は、明るい挨拶が飛び交う、安心できて居心地の良い町です。そんな町をつくっていくため、私は挨拶の輪を広げていこうと思います。

最優秀作品 (小学生の部)

ぼくにできること

石川町立石川小学校1年 小林 凜太郎

ぼくのいえのちかくには、おとしよりがたくさんくらしています。

そのなかのひとり、ぼくのひいおばあちゃんです。

あしがわるいので、つえやセニアカーをつかってひとりでくらしています。

とてもやさしいので、ひいおばあちゃんのがだいすきです。

ひいおばあちゃんが、

りんたろうがあそびにきてくれると、げんきなこえがきこえるから、わるいひともこないよ。と、いっていました。

ぼくが、ひいおばあちゃんにあいにいっていることが、あんしんになっていることをしり、とてもうれしかったです。

これからもたくさんあいにいきます。